

3. 親と子の学び方と育ちを応援するために

(1) 親になるための学習環境の整備

《現状と課題》

かつて親たちは、日々の子育てやしつけ、家庭教育を、家族や親戚、近隣の親たちの姿から学び、支えられて行ってきました。しかし、少子社会に育った若い親たちは、兄弟の数も少なく、近隣の小さな子どもを世話した経験も少なく、かつての世代と比べると育児に通じる様々な体験が希薄になっています。こうした背景から、現代にふさわしい家庭教育や次世代の親となる子どもへの体験・学習環境を整備することが求められています。

このように、子どもを生み育て、そして教育していくためには、まず、親の現実にあった家庭教育支援を展開していくことが必要です。実態調査によると、家庭教育に関する学級・講座の利用状況は就学前児童で9.4%（表5）、就学児童で11.4%（表7）にすぎませんが、利用意向をみると就学前児童で53.6%、就学児童で37%（表8）の人が「利用したい」としていることから、無責任な放任や過保護・過干渉の育児に陥らないよう、子育てに関する学習の機会を充実させ、家庭の教育力の向上を目指します。

さらに、将来親になる中高生に対しても、子育ての喜びや楽しさを知ってもらうための取り組みが求められています。

(表5) 家庭教育に関する学級・講座 利用状況 (就学前児童)

	0歳		1～2歳		3～5歳		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
利用したことがある	4	19.0	7	14.3	6	5.4	17	9.4
利用したことがない	17	81.0	40	81.6	95	85.6	152	84.0
無回答	0	0.0	2	4.1	10	9.0	12	6.6
計	21	100	49	100	111	100	181	100

(表6) 家庭教育に関する学級・講座 利用意向 (就学前児童)

	0歳		1～2歳		3～5歳		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
利用したことがある	14	66.7	23	47.0	60	54.1	97	53.6
利用したことがない	5	23.8	22	44.9	40	36.0	67	37.0
どちらともいえない	0	0.0	1	2.0	0	0.0	1	0.6
無回答	2	9.5	3	6.1	11	9.9	16	8.8
計	21	100	49	100	111	100	181	100

(表7) 家庭教育に関する学級・講座 利用状況 (就学児童)

	1・2年生		3・4年生		5・6年生		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
利用したことがある	12	11.7	8	9.0	14	13.3	34	11.4
利用したことがない	82	79.6	77	86.5	82	78.1	241	81.2
無回答	9	8.7	4	4.5	9	8.6	22	7.4
計	103	100	89	100	105	100	297	100

(表8) 家庭教育に関する学級・講座 利用意向 (就学児童)

	1・2年生		3・4年生		5・6年生		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
利用したことがある	43	41.8	34	38.2	33	31.5	110	37.0
利用したことがない	47	45.6	44	49.4	60	57.1	151	50.9
どちらともいえない	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	13	12.6	11	12.4	12	11.4	36	12.1
計	103	100	89	100	105	100	297	100

《施策の方向性》

現在子育て中の親に対しては、子どもだけでなく親も一緒に育っていくという視点に立ち、安心して家庭で子育てを行えるような相談・指導・学習機会・支援事業等の充実を目指していきます。

また、次代の親となる中高生に対しては、子どもを生き育てる喜びを私たち一人ひとりが伝え、人間性の豊かさやたくましく生きる力を育むような、様々な地域活動の場の提供に取り組んでいきます。



(2) 子どもの豊かな心の育みの支援

《現状と課題》

ア 子どもの豊かな心の育み

子どもの豊かな心を育てていくためには、学校で机に向かって学習するだけでなく、部活動・課外活動や自然体験・社会体験活動等の学校外活動を通して、様々な体験をしていくことが大切です。そして、このような小さい頃からの体験やそこでのいろいろな人との関わりは、子どもたちが自分たちのむらについての理解を深めていくことにもつながると思われまます。

山手村では、「チャレンジクラブ」・「子どもスクール」・「FOS少年団」・「十日町交流事業」・「ボランティアスクール」・「ニュースポーツデイ」などで、子どもたちに様々な体験の場や機会を提供してきました。特に「チャレンジクラブ」では毎回多くの親子が参加し、学校の先生や地域住民との交流をもって活動しています。

「チャレンジクラブ」の入会者数（平成15年度）

幼稚園
7人

(対象：小学生と中学生)

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中学生	合計 (人)	在籍 児童 数	入会 率
5	5	6	8	12	19	0	55	285	19.2

また、同時にこれらは、子どもたちの居場所としても機能してきましたが、これまで参加していない子どもたちが興味を持つよう、今後より一層の充実を図っていく必要があります。

イ いじめや少年非行等の問題行動、不登校

その一方で、いじめの陰湿化や不登校により、学びたくても安心して学ぶことができない児童、少年非行等の問題行動を起こす児童への適切な対応も行っていく必要があります。こういった児童に対するケアを誤ると、将来に向けた健全な成長を妨げる結果になりますので、学校だけの問題としてとらえるのではなく、様々な立場からのアプローチが必要となってきます。

私たちの村では、主任児童委員2名と子育てアドバイザーを各地区に1名配置し、中学生くらいまでの子どもを持つ親に対して、子育てやしつけについて、友人のような関係で気軽に相談に応じたり、きめ細かいアドバイス等を行って、地域により密着

した子育て支援を行っていますが、より一層機能していくことが求められています。

《施策の方向性》

ア 子どもの豊かな心を育むための取り組み

子どもたちの地域における様々な体験活動を充実させていくために、プログラムの策定等に当たっては、子ども自身や保護者等の参画を検討していきます。そして、より多くの子どもたちに参画してもらえるプログラムの開発に取り組んでいきます。

イ 特色ある学校づくり

学校における教育環境を整備することについては、従来の行政の画一的な学校施策ではなく、指導方法や学区割に柔軟性をもたせ、地域に根ざした学校づくりを目指します。

ウ 幼児教育の充実

就学前の幼児期の子どもたちにとっては、幼稚園での日頃の生活や体験は非常に重要な意味を持つものです。したがって、地域の特性や園の特色を生かした、個性ある幼稚園教育活動を進めていきます。

エ いじめ、少年非行等の問題行動や不登校への対応

いじめ、少年非行や不登校の問題に対応するために、専門的な相談員やカウンセラーを適切に配置し、指導・助言・情報交換等のネットワーク化を図ります。また、こうした相談員の資格を幼稚園や学校の教員も取得できるよう、必要な講座の開設やカリキュラムを考えていきます。

さらに、学校だけではなく、専門機関との連携や大学生のピアサポーター（注）を活用するなどして、その児童に最も適したアプローチで立ち直りをサポートしていただけるような役割分担やフリースクール等の検討を進めていきます。

（注）同輩支援、仲間同士で助けられたり、助けられる「旅は道づれ」的人間関係のこと。

3) 子どもの育ちに応じた家庭教育への支援

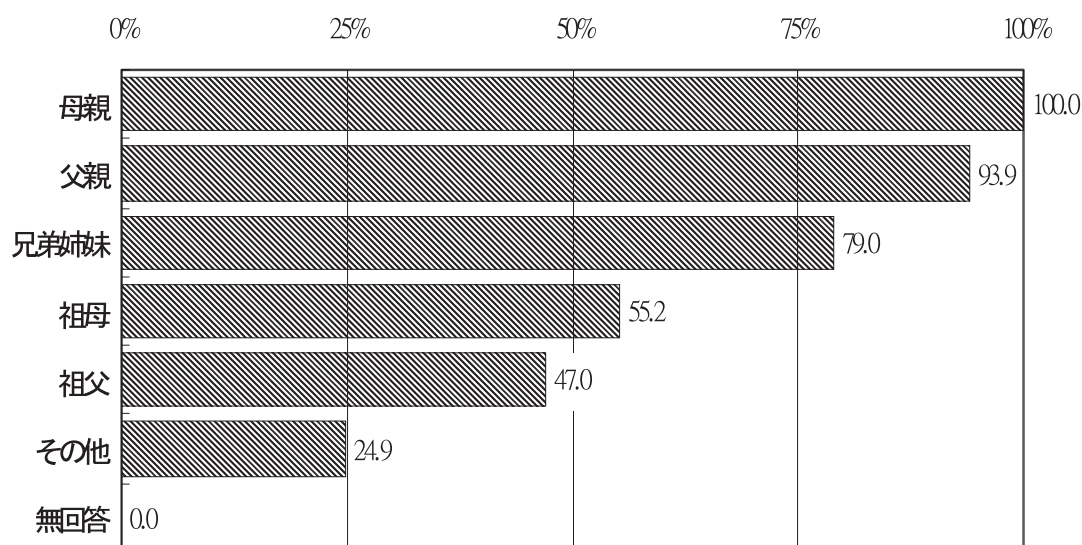
《現状と課題》

少子社会に育った、現在子育て中の若い親たちにとっては、初めて抱く赤ちゃんが自分の子どもであったり、世話をする赤ちゃん、ということも珍しくありません。

年配の親世代のように大家族で兄弟や隣近所、地域の小さな子どもの世話をしたような体験を豊富に持つという部分から比較すると、総じて育児につながる経験が乏しいといえます。私たちの村では、比較的親・親族との同居世帯の割合が多い現状にあると考えます。よって、そういった豊富な体験を持つ方からのアドバイスや手助けをしてもらえ、自身の子育てに生かすことができます。しかし、一方では今後さらに深刻化する高齢化の問題や核家族化現象といった部分からも、やはり自身の子どもであるという現実、親として子育てに対する責任の中から生まれる不安や悩みは否めません。

【就学前児童調査】

同居の家族
(続柄は調査対象児童からみた関係)



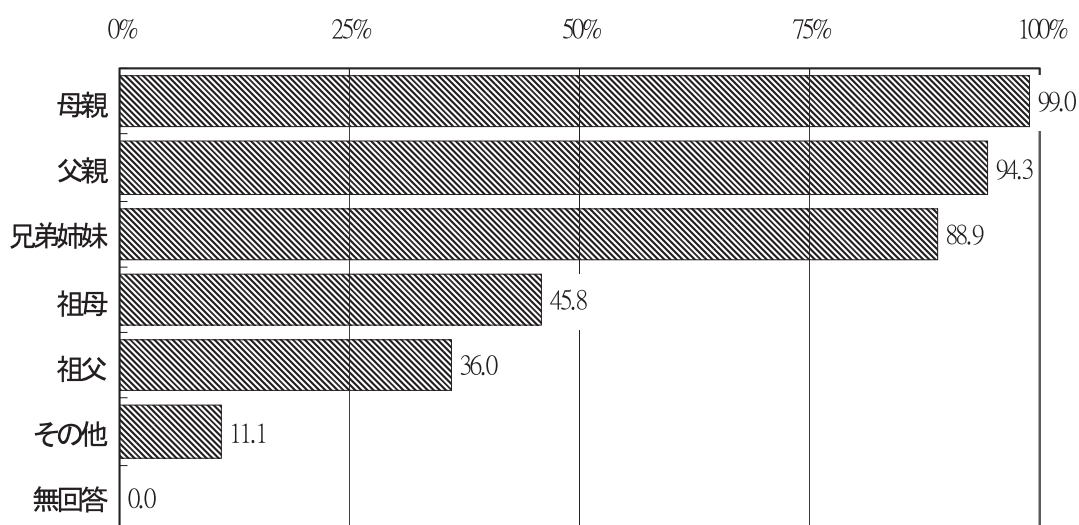
主な保護者
(調査対象児童の身の回りの世話等をしている保護者)

	0歳		1～2歳		3～5歳		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
母親	20	95.2	48	98.0	107	96.4	175	96.7
父親	0	0.0	0	0.0	1	0.9	1	0.6
祖父母	0	0.0	1	2.0	3	2.7	4	2.2
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	1	4.8	0	0.0	0	0.0	1	0.5
計	21	100.0	49	100.0	111	100.0	181	100.0

次世代育成支援に関するニーズ調査より（平成16年4月実施）

【小学校児童調査】

同居の家族
(続柄は調査対象児童からみた関係)



主な保護者
(調査対象児童の身の回りの世話等をしている保護者)

	1・2年生		3・4年生		5・6年生		計	
	人	%	人	%	人	%	人	%
母親	100	97.1	85	95.5	99	94.3	284	95.6
父親	0	0.0	0	0.0	2	1.9	2	0.7
祖父母	2	1.9	3	3.4	3	2.9	8	2.7
その他	1	1.0	1	1.1	0	0.0	2	0.7
無回答	0	0.0	0	0.0	1	0.9	1	0.3
計	103	100	89	100	105	100	297	100

次世代育成支援に関するニーズ調査より（平成16年4月実施）

家庭における教育力の向上を図るには、まずこうした若い親たちが通過してきた社会の変化や地域の子育てを取り巻く現状を踏まえて支援することが重要です。

また、子育ての悩みについては、ある一定のものではなく、子どもの成長と共に変化していくものであり、いつの時代にも子育てに悩まない親はいないものです。親にとって子育ては、切っても切れない関係にあります。さらに、親は様々な悩みを抱えながらも、それを乗り越え、子どもとともに成長していく存在でもあります。

しかし、子育ての中から起こりうる目の前の問題に対してどのようにとらえ、解決したらよいのか、混乱する親もいます。相談する方法や知識・情報にも疎く、適切な対応が取れないことで自身を追い込み孤立してしまうことも例外ではなく、この場合極端な場合は親による虐待や家庭内暴力といった人権が侵害されるような状況も危惧されます。

子どもの育ちに応じて、同世代、子育て中の親と子どもが学んだり、互いの悩みを相談できる場を整備し、必要な情報や機会が適切に提供され、誰でも気軽に利用できることが、地域においても重要な課題です。

その中でも、保育園や幼稚園という場が、子育てに関する専門性を生かした学習環境や情報提供に取り組んでいくことが求められます。また、子育てサロンの活性化・内容の充実も重要な役割であると考えられます。

《施策の方向性》

ア 子どもの発達段階に応じた家庭教育に関する学習機会や情報の提供

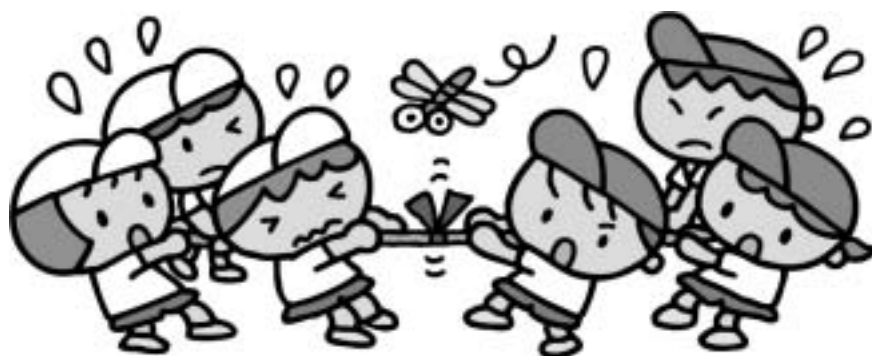
子育て家庭が抱えている悩みやニーズは、子どもの発達段階によって異なると考えます。これらを的確にとらえ対応するため、保育園や幼稚園などの専門機関をはじめ、各種ボランティアグループ等と連携をしながら、育児関連講座の実施や家庭教育学級の開催・子育てサロン等、家庭教育に関する学習機会や情報提供の場のさらなる充実・強化に努めます。

イ 子どもの「生きる力」の育み

子どもたちの豊かな人間性を培い、かつ、たくましく、そしてチャレンジする気持ち・生きる力を育むために、学校や地域、家庭が相互に連携しつつ、「チャレンジクラブ」「ボランティアスクール」をはじめとして、子どもたちへの様々な体験活動の機会を提供し、活動を充実させていきます。

ウ 地域のスポーツ環境の整備

子どもたちの肉体的・精神的な健全育成を目的とするだけでなく、それぞれが持つスポーツへのニーズに応じて、いつでもどこでもスポーツやレクリエーション活動ができ、世代を超えて交流・ふれあいが生まれる生涯スポーツ社会の実現に向けた施設整備や「ニュースポーツ大会」をはじめとして、各種スポーツ教室の開催を充実させていきます。そして、その際には地域の競技経験者等が指導者として関わっていける可能性も検討していきます。



(4) 子育て支援のための地元大学との連携の推進

《現状と課題》

私たちの村は、近隣（生活圏内）に県立大学が存在しており、連携という点においては非常に恵まれた環境にあります。その大学に通い、専門的知識を学ぶ中で様々な子育て活動を実施し、言わば活動を支援する側の大学生は、比較的年代が近いという部分において子どもたちに与える影響は大きく、彼らの活動に注ぐ気持ちや表情から湧き上がるエネルギーの大きさを考えると、たいへん期待を抱かせる存在です。

また、そういった若い力を育てる立場であり、育児・教育・学校問題を専門とする大学の先生方の存在は、子育て支援を求める家庭・学校・地域にとっての講師役、相談役として適任と言えます。

子育てを地域ぐるみで支援していくという観点に立ったとき、県立大学は地域における社会資源の一翼を担う重要な存在であり、学校や地域がうまく県立大学と連携を図っていくことが今、必要であると考えます。そして、連携し活動していく中での発見や課題については、支援する側の大学生にとっても、次代の親として来るべき未来の自身の子育てシーンに存分に活用されることが期待されます。

《施策の方向性》

各種の行事や開催イベントにおいては、大学生に参画的なボランティアとして積極的な参加を仰いだり、不登校の児童生徒や集団不適應の児童生徒への対応についても臨床心理学系の学生にサポートとしてその活動の支援を仰いだり、さらには専門的立場・視点から大学の先生に助言をしてもらったりと、協働して私たちの村の子育て支援を充実させていけるよう、県立大学とのより一層の連携・協働しての取り組みを強化していきたい。